

品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン

品川区

品

品川区

品川区地域振興事業部文化スポーツ振興課

所在地: 〒140-8715 品川区広町2-1-36

TEL.03-5742-6835 FAX.03-5742-6585

メールアドレス: bunka-sports@city.shinagawa.tokyo.jp



文化芸術・スポーツでつながり
輝き続けるしながわをめざして

平成22年3月

概要版

*古紙を配合した再生紙を使用しています。

文化芸術・スポーツで つながり 輝き続けるしながわ をめざします

文化芸術やスポーツは、これまで「個人の営み」と言われ、それぞれが自己の喜びや満足感を充たすために活動していると捉えられてきました。一方で、こうした活動を通して「人と人」や「人と団体・地域」が交流し、地域のにぎわいの創造につながるという効果が、文化芸術やスポーツの持つ社会的な機能として注目されてきております。区議会では、このような考え方をもとに議員の皆さまからのご提案がなされ、「文化芸術・スポーツのまちづくり条例」が制定されました。

こうしたことを踏まえ、文化芸術とスポーツの振興を地域のにぎわいにつなげるため、「品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン」を策定したものです。

策定にあたりましては、学識経験者、各団体の代表、区議会議員、公募区民の皆さまからなる「品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定委員会」において、9カ月間にわたり熱心なご議論をいただきました。

策定委員の皆さまをはじめ、区民意識調査や活動団体調査、パブリックコメントを通じてご協力いただきました区民の方や団体の皆さまに厚くお礼を申し上げる次第です。

品川区は、このビジョンをもとに文化芸術とスポーツの振興を図るとともに、これらの活動を地域のにぎわいにつなげ、ビジョンが目指す「文化芸術・スポーツでつながり 輝き続けるしながわ」の実現に向けて取り組んでまいりますので、区民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



品川区長
濱野 健



林試の森フェスタ

1 背景

品川区では、平成20年3月に品川区基本構想（以下、「基本構想」という。）を策定しました。また、同年4月には、議員提案による品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例（以下「まちづくり条例」という。）が施行されました。基本構想を実現するため、平成21年度から30年度までの長期基本計画も策定され、新たなまちづくりが始まっています。

基本構想では、3つの理念の1つとして「伝統と文化を育み活かす品川区をつくる」を掲げています。また、まちづくり条例では、「文化芸術およびスポーツの振興に関する施策を総合的に推進することにより、区民等の自主的な文化芸術活動およびスポーツ活動を促進し、潤いのある健康で活力に満ちたまちづくりに資する」と謳われています。

長期基本計画においては、第一の都市像「だれもが輝くにぎわい都市」の基本方針に「伝統と文化の継承と発展を図る」と「生涯学習・スポーツを振興する」が掲げられ、今後、具体的な事業が推進されていくことになります。

世界人権宣言では、文化芸術は人々の権利であると宣言しています。国においても、文化芸術振興基本法やスポーツ振興法に基づくスポーツ振興基本計画の中で、文化芸術を「豊かな社会を形成する上で欠かせないもの」、スポーツを「豊かで明るく活力の満ちた社会の形成や個人個人の心身の健全な発達に必要不可欠なもの」とし、共に振興していくとしています。

いずれにおいても、これからの成熟した社会において、さらに未来を創造し、人々が健康で豊かな生活を形成するため、文化芸術・スポーツが重要な役割を担うということを述べています。

こうした背景を受けて、文化芸術・スポーツ振興の総合的な取り組みの理念と方向性を明らかにするために、品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン（以下「本ビジョン」という。）を策定するものです。

2 位置づけと役割

■ 基本構想の考え方を受けて

本ビジョンは、基本構想が描く品川区の将来像「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」を、文化芸術・スポーツを通して実現していくための理念と方向性を示す役割を持っています。

■ 長期基本計画の実現すべき都市像と文化芸術・スポーツの振興

本ビジョンは、基本構想の3つの理念の1つである「伝統と文化を育み活かす品川区をつくる」のみならず、これらの理念全体をも見据えて策定されるとともに、長期基本計画が描く5つの都市像を実現するため展開される各施策の方向性を示していくものです。

■ 文化芸術・スポーツのまちづくり条例が示す振興の方向性を踏まえて

まちづくり条例では、品川区が「文化の香り豊かな近代都市」として発展していくためには文化的なまちづくりが必要であり、文化芸術とスポーツのもたらす恵沢がまちづくりに活かされ、品川区が心豊かなにぎわい都市としてさらに大きく発展するために、文化芸術とスポーツの振興が必要であるとしています。

■ 「にぎわい都市」を実現するために

基本構想やまちづくり条例、長期基本計画などが掲げる、「にぎわい都市」という大きな目標を、文化芸術・スポーツの振興を通じて実現するための方向性を示すものです。

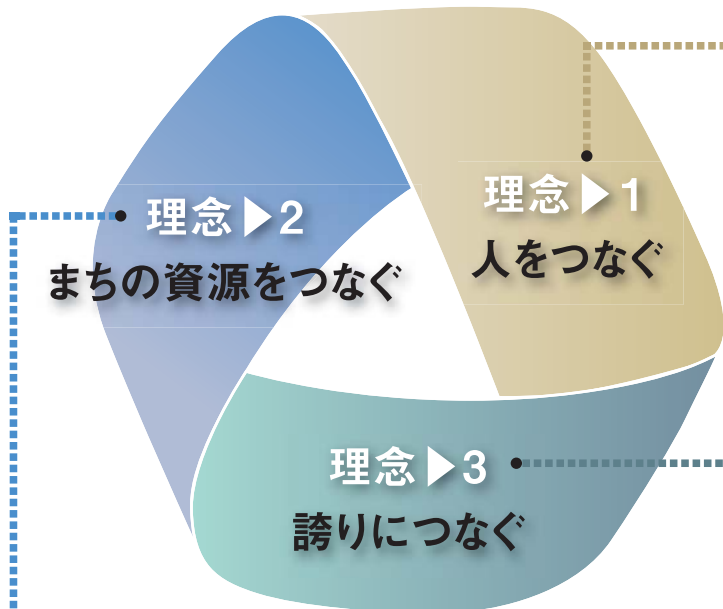
文化芸術・スポーツでつながり 輝き続けるしながわ をめざして

文化芸術・スポーツには、人々に楽しさや喜び、充実感を与え、人生を豊かにする力があります。また、文化芸術・スポーツは人々のつながりを広げたり、地域の活力を高める役割をもっており、まち全体にとっての公共財としての効用もあります。

品川区の文化芸術・スポーツの振興は、区民一人ひとりが何らかの形で文化芸術・スポーツに

親しみ、楽しみ、つどい、つながり、会話が生まれていくような活動をさらに伸ばし、活性化していくような方向性が大切です。

区民がわがまちを愛し、誇りをもつことで、笑顔があふれる心豊かなにぎわい都市品川ができあがり、まちのにぎわいを求めて多くの人が訪れる、魅力があふれるまちにつながっていくのです。



文化芸術・スポーツ振興の基本は、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、区民一人ひとりが文化芸術・スポーツに親しみ、楽しさや潤い、充実感など、文化芸術・スポーツの持つ魅力を楽しむことにあります。

また、居住する区民だけではなく、品川区内で働く人・学ぶ人や区外から訪れる人など、品川区に集うすべての人々が多様な活動の担い手となり、交流や協働により人がつながることによって、相互に理解しあい、さらに大きな喜びにつなげることができます。

長年にわたり培われてきた伝統文化や地域の特色ある文化芸術・スポーツ活動は、地域への愛着を深め、連帯感を強めるものです。

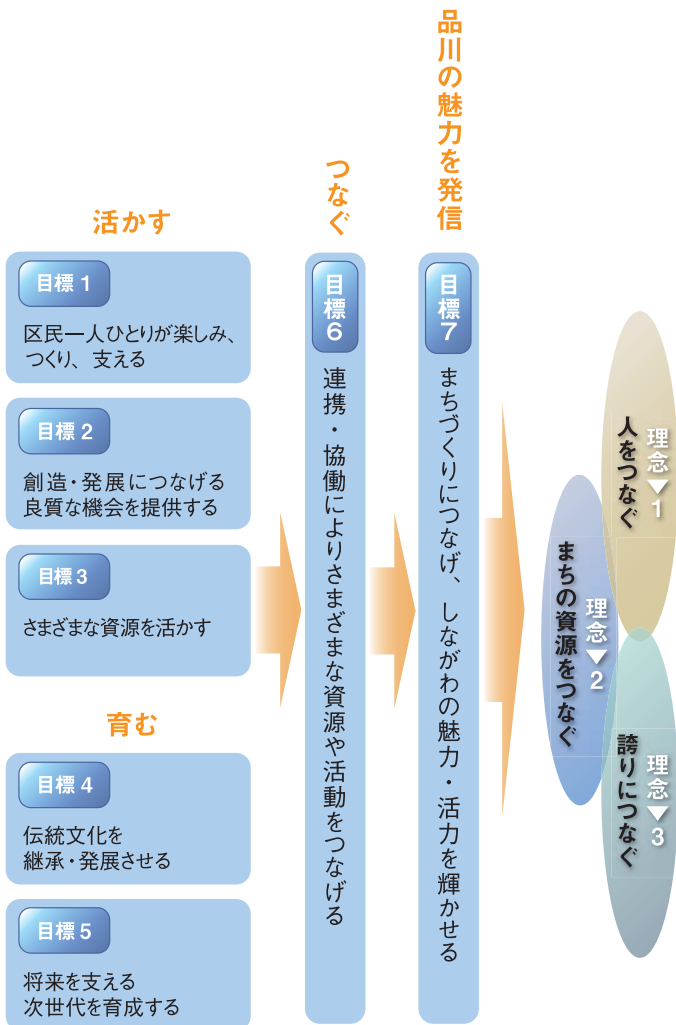
品川区の持つ歴史や先人達の精神を活かし、その活動を継承・発展させるとともに、有形無形の資源を掘り起こし、再認識し、活用し、そしてつなげることによって、新たな活力の創造・発展が期待できます。

品川区には、地域の人の輪である良い意味での「おせっかい」があります。都会にありながら下町の風情を残す品川は、文化芸術・スポーツの持つまちづくりの機能を活かしながら、さらに発展し、まちの魅力を向上させる可能性があります。

そして、住んでいてよかった、働いていてよかったと感じるような、人々の生活に根ざしたにぎわいが生まれ、品川のまちの誇りにつながります。

7つの目標と 施策の方向性

本ビジョンにおける将来のまちの姿（P4～5 参照）と、それを築く3つの理念に基づき、将来のまちの姿を実現するための7つの目標と施策の方向性を示します。この7つの目標と方向性は、都市経営や観光・まちづくり・福祉・環境・教育などの分野とも連携を図り、総合的な展開も期待されるものです。



目標 1

区民一人ひとりが 楽しみ、つくり、支える

文化芸術・スポーツには、人々に楽しさや喜び、充実感を与え、人生を豊かにする力があり、品川区内でも、さまざまな活動が活発に行われています。

一方で、区民意識調査によれば、文化芸術・スポーツへの関心度は非常に高いものがありますが、家の外に出て参加をしたり、自ら活動するような傾向が弱いことが見てとれます。また、「活動への意欲はあるが、時間的余裕や機会が無い」とする回答も多く、参加したくてもできない人がいる状況も見えてきます。

区民の文化芸術・スポーツ活動をさらに広げ、品川区というまちがにぎわっていくためには、子どもから高齢者まで、より多くの区民が文化芸術・スポーツを「する・みる・支える」の何れかの活動に関わっていくことが望まれます。

また、既に活動している人だけでなく、意欲はありながらも心身の健康状態、家庭や仕事の事情など、さまざまな制約があって活動できない人も参加できるような仕組みをつくり、それぞれの人が楽しさや生きがいを感じられるようにしていくことが重要です。

加えて、地域で文化芸術・スポーツ活動をしている人たちが、自分の能力や知識を地域に還元する仕組みづくりも求められます。

区民の一人ひとりが、文化芸術・スポーツを「楽しみ・つくり・支える」ことで活動の裾野が広がり、芸術・学び・健康・体力づくりなど、地域に、まちに、文化芸術・スポーツ活動をする区民があふれるようになっていきます。



林試の森フェスタ

施策の方向性

- すべての区民が文化芸術・スポーツに触れ・親しみ・楽しむことができる環境づくり
- 身近で気軽に楽しめる、まちかどコンサートなどの取り組み
- 地域で活動している人たちが、自分の能力や知識を地域に還元する仕組みづくり
- 区民が感動を共有できるような顕彰制度の充実

目標 2

創造・発展につながる 良質な機会を提供する

文化芸術・スポーツにより「にぎわい」のある品川区にするためには、まず、文化芸術・スポーツの多様なプログラムが参加しやすい形で提供されることが必要です。

そして、区民が自主的に提供する文化芸術・スポーツの機会が、良質で創造・発展につながるように支援をしていくことが必要です。例えば、指導者の紹介や運営の支援を行うことで、区民が提供する文化芸術・スポーツのプログラムが充実するとともに、さらに多様で良質な機会となっていくことが期待されます。区や財品川文化振興事業団、財品川区スポーツ協会も、楽しみの深まりにつながるような、良質なコンサートやスポーツ事業などを提供することが求められます。

また、ワークショップや参加型事業は、区民が協働し、創造の空間・時間を共有することで一層の達成感を得ることができ、文化芸術・スポーツを身近に感じることができます。今後は、こうした事業も積極的に展開していく必要があります。

さらに、区民挙げての芸術祭やスポーツ大会などは活動の目標となり、レベルの向上や活発な活動を誘発することが期待できます。

一方で、こうした活動を側面から支える人たちのための環境整備も重要です。文化芸術・スポーツは「する・みる・支える」人の輪で創られており、活動の裾野を広げていくうえでは、運営に参加している方など、活動を支える人たちの参画を促すような環境の整備も望まれます。



区民スポーツ大会（軟式野球大会）

施策の方向性

- 多様なプログラムの提供
- 芸術祭やスポーツ大会など、活動の励みとなるような場の提供
- いつでも・だれでも・どこでも、いつまでもスポーツ活動ができる、地域が主体となったスポーツクラブの展開
- 多世代が学ぶ機会の充実

目標 3

さまざまな資源を活かす

品川区では、商店街のイベントなどさまざまな区民の活動が活発に展開され、それぞれに活気ある地域社会をつくっています。こうしたイベントのほか、総合区民会館「きゅりあん」などの文化施設での発表会・演奏会や、スポ・レク推進委員会を中心としたさまざまなスポーツ活動なども年間を通して活発に実施されています。

また、区内には、区民向けの公開講座に実績のある大学をはじめ、民間文化団体や劇場・美術館などの施設が提供する優れた文化芸術の資源があります。さらに、著名なアーティストが在住しているほか、国内のトップリーグで活躍しているチームが所属する企業もいくつか存在します。このように区内には、文化芸術・スポーツの資源が豊富にあります。

こうした資源を掘り起こし、再認識し、品川区の文化芸術・スポーツを振興するために活かしていくことが望まれます。

また、文化芸術・スポーツに関する情報の提供や相談に応じる能力を持った専門的な支援組織があると、大型のイベントなどの効果的な事業実施につながりやすくなります。

さらに、ケーブルテレビやインターネットなど、放送・通信などの情報技術を活かした取り組みも、活動の発展・創造につながることを期待できます。

このように、各活動の自発性や自立性を育んでいくよう、さまざまな資源を活かした支援や仕組みが求められます。

また、限られた施設環境の中で、その利用方法や運営方法を工夫するなど、既存施設の有効活用も求められます。



清泉女子大学

施策の方向性

- 地域のさまざまな活動の再発見と資源化の取り組み
- 民間文化施設や区内の研究機関・企業等との連携
- 情報提供・相談機能の強化
- 活動を支える人が活かされる仕組みづくり



目標 4 伝統文化を 継承・発展させる

古くから品川湊や交通の要衝として栄えた品川区には、神社仏閣をはじめ、祭礼・伝承行事や神楽などの多くの歴史的な資産があります。区民まつりや盆踊りで区民に親しまれている「品川音頭」は、全国の「たのしい民踊」にも選ばれ、品川を「ふるさと」として思う郷土への愛着心と区民の絆を強めつつ、品川のまちなかの良さを次世代に伝えていきます。旧東海道の史跡を人々が訪れ歩くなど、観光としての魅力も地域のにぎわいにつながっています。

このように、伝統文化は、人々の強い結びつきをつくり、郷土愛とにぎわいを育んできました。品川区の人情・風土をつくり上げ、おだやかで住みやすい地域社会の基盤となってきたのです。

これまで、品川区の伝統文化は、それを守り伝える様々な活動によって、保存継承されてきました。地域の生活に根付かせ、にぎわいにつなぐため、今後もこれらを地域の宝として大切に保存するとともに、活用の方策を立て、区民に広く伝えていくことが必要です。

そのためには、こうした活動や取り組みを育成・支援し、伝統文化に触れる機会を充実させていくことをはじめ、積極的な普及活動を行っていくことが求められます。



間宮社中の江戸里神楽

施策の方向性

- 地域における歴史文化の重要性の再認識、伝統文化の保存と継承の取り組み
- 伝統文化を活用した観光事業の展開
- 地域の自主活動団体やボランティアとの連携
- 伝統文化の展示・情報発信の強化



目標 5 将来を支える次世代を 育成する

子どもたちにとって文化芸術・スポーツは、情操を豊かにするとともに、一人ひとりの個性を伸ばしていくはたらきを持つものとして期待されています。また、人と人とのつながり、支えあいという大切な地域の風土、いわば品川らしさは、子どもたちが文化芸術・スポーツを通じた活動に触れるなかで培われていくものです。

子どもたちは、将来の文化芸術・スポーツの担い手でもあります。品川区が、今後も文化芸術・スポーツの活動にあふれ、にぎわい、輝くまちであるためには、こうした将来の担い手が文化芸術・スポーツに親しみ、楽しみ、参加するという意識を子どものころから育てていくことが求められます。

また、文化芸術・スポーツが持つ、人々の交流の促進などの機能は、子どもたちに社会性を身につけさせるものでもあります。

こうしたことから、子どもたちが、文化芸術・スポーツに親しみ楽しむ心を育む、就学前から小中学校時代を通じた、系統的で継続的な体験の機会を提供していく必要があります。

文化芸術・スポーツが地域の人のつながりを創るなど、地域社会にとって重要なものであることや、地域の大人との関わりのなかで、相互に理解し尊重しあうことの大切さを学ぶことができるような取り組みも望まれます。



体育の日（空手道教室）

施策の方向性

- 子どもたちが創造性を育む多様なプログラムの整備・促進
- 子どもたちの憧れを活動へつなげる体験・学習機会の提供
- 子どものころから地域の歴史を学び・体験する機会の充実
- 文化芸術・スポーツの活動を通じた、子どもたちと多様な世代間の交流促進



目標 6 連携・協働により さまざまな資源や活動をつなげる

区内には、さまざまな文化芸術・スポーツの団体や個人の活動があります。また、企業においても、CSR活動のみならず地域との関わりを意識した文化芸術・スポーツ活動が行われています。

しかしながら、こうした各種団体や企業等の活動は、それぞれが独立した活動として行われていることが少なくなく、相互に連携・協働が図られていない事例も見受けられます。

団体等が相互に交流することは、互いのノウハウを補完し、活動の広がりや深まりを生んでいきます。それぞれの活動・団体をレベルアップするといった相乗効果も期待されます。

また、懇話会や交流会などの機会を通じ、さまざまな活動を有機的につなぐ仕組みをつくり、ネットワーク化していくことも必要です。文化や生涯学習、スポーツそれぞれはもとより、分野を超えて交流したり、品川の文化芸術・スポーツの振興についての意見交換を図ることにより、より大きな連携や協働が期待できます。

こうして生まれた人や組織、活動などのつながりが品川らしい良い意味での「おせっかい」をつくり、品川のにぎわいを担うまちの新たな資源となっていくのです。

多様な活動や団体等の連携・協働を推進するには、区民が必要に応じて区内の文化芸術・スポーツの活動の情報を十分に受け取り、発信することが容易にできる情報交換の基盤整備も大切です。こうした情報基盤の整備は、連携や協働を進めるうえでの仕組みにとどまらず、機会の充実や人々の参画を促すうえでも重要です。



楽器体験（EBARA 夢フェスタ）

施策の方向性

- 活動団体、民間施設、企業等の相互交流と連携・協働の推進
- 懇話会などを通じた、活動や団体・企業等のネットワークづくり
- 区民が文化芸術・スポーツの情報を収集・発信するための基盤の整備



目標 7 まちづくりにつなげ、 しながわの魅力・活力を 輝かせる

区民の文化芸術・スポーツの活動が活発になることで、区内に多くの人の交流が生まれ、まちがにぎわい、区民が一体感を持ちながら暮らせるまちの実現につながります。そして、品川区に住む人も、働く人も、学ぶ人も、誇りを持てる地域社会となっていきます。

例えば、防災の面では、災害時における必要な助け合いや見守りにおいて効果をもたらすでしょう。文化芸術・スポーツの活動で多くの区民が行き交うことによって、商店街が求めるにぎわいも創出されます。区民の文化芸術・スポーツ活動によって、近隣セキュリティシステムのような地域が子どもたちを見守る仕組みも、さらに安全で安心できるものとなっていくでしょう。

このように、文化芸術・スポーツによって活性化されるまちのネットワークが商業振興や安全・安心などの取り組みにも波及していき、文化芸術・スポーツに直接関わっていない人にも、大きな効果をもたらすことにつながるのです。

一方で、文化芸術・スポーツの活発な活動は、区外の団体や活動とつながることで、さらに広がりを見せ、機会や内容が充実していくことが期待されます。また、こうしたつながりや広がりが、さらにまちのにぎわいをもち、品川の魅力を一層高めていくこととなります。

ここに掲げた、それぞれの目標が着実に推進されていくことによって、しながわの魅力は一層輝きを増し、区外からも多くの人々が訪れたいというまちの実現につながります。



文化財めぐり（大森貝塚遺跡庭園）

施策の方向性

- 商業・観光など他の施策との連携
- しながわの魅力の強化と発信

ビジョンの実現に向けて

1 区民への期待

文化芸術・スポーツのまちづくり条例は、区民の役割として、自らが担い手であり、その活動によるまちづくりの役割を積極的に果たすよう求めています。本ビジョンが実現しようとする文化芸術・スポーツ活動によってにぎわうまちづくりを進めるには、区民や区内団体の自主的・自発的な活動が求められます。



シルバー大学ふれあい発表会

2 企業や学校への期待

区民や地域の文化スポーツ関連団体の他に、企業や学校等も文化芸術・スポーツ活動の重要な推進役です。区には、民間施設の劇場や美術館、優れたスポーツ活動をしている企業スポーツなどが存在しています。従来の企業活動に留まらず、品川区の文化芸術・スポーツ活動を支える一員となり協働して取り組むことが望まれます。また、品川区内の企業で働く人たちや学校で学ぶ人たちも昼間区民として、地域社会を形成する一員であり、区民・区内団体と同様に、品川区の文化芸術・スポーツをともに推進していくことが望まれます。



明電舎ふれあい音楽教室

3 区役割

区には、こうした区民との協働により、にぎわうまちづくりを進めていくことが求められます。

文化芸術・スポーツの振興事業においては、芸術祭の実施や地域スポーツクラブの創設などの先導的なプロジェクトを展開し、本ビジョンが示す方向性の具体化に努めることも重要です。

その一方で、基本構想に掲げる5つの都市像を推進する各事業が、文化芸術・スポーツによる「にぎわうまち」を実現していくよう配慮されなければなりません。各事業を推進していく上でも本ビジョンが示す7つの目標を視野に入れ、施策における連携など、さまざまな施策の展開において、にぎわうまちをつくるという視点が考慮されていくことが望まれます。

また、区の関係機関である(財)品川文化振興事業団と(財)品川区スポーツ協会は、本ビジョンが示すまちの将来像を区と協力して実現していく役割を持っています。財団という民間組織の柔軟性や機動性を発揮して、一層区民の活動を支援し、誘導・牽引していく役割が期待されます。



トリムフェスティバル



区民スポーツ大会 (マラソン大会)